

府中市協働事業 第三者評価シート

事業名称	映画「日本と再生」上映・討論等による府中市スマートエネルギー都市構想実現の機運醸成事業
事業実施者	自然エネルギーを考える会／府中市環境政策課
事業目的	自然エネルギーの普及には地域特性があり世界の先進例を映像でわかりやすく学びつつ市民が府中の地域性に着目して独創的に考えて行く必要がある。
事業内容	世界の自然エネルギーの現場取材して制作した河合弘之監督による映画「日本と再生」を上映し、映画を観たあとに参加者が「府中市でスマートエネルギー都市構想をどう実現するかをアドバイスゲストスピーカとともに討論する。
事業目標	単に映画を観るだけでなく広く市民が討論することで府中市独自のスマートエネルギー都市実現へのヒントを得る。

	B
1 評価結論	双方が役割を果たし、歩み寄りながら事業を進めているが、目的共有や情報共有が一部不足している。事業計画段階からコミュニケーションを密にすることで、より相乗効果の高い事業となる。 多くの主体間の連携や若い世代へのアプローチなど、課題が認識されているため、今後の展開に期待する。
2 事業について	スマートエネルギー都市構想実現に向けた機運醸成として、市民が自由に意見を発信できる場を提供することは意義がある。 実施内容の認識にずれがあったため、情報共有を密に行うとともに、事業実施後のゴールイメージを共有することで、より相乗効果の高い事業となることが期待できる。
3 協働の視点について	双方が役割を果たし、歩み寄りながら事業を進めることができていた。 目的共有、情報共有が不足しており、当初からあった認識のずれを解消できなかった。事業計画段階から密にコミュニケーションを取り、お互いの認識をより一層深める必要がある。
4 今後の展望や様々な主体間との連携	事業者や関係団体、他自治体等、様々な主体間との連携の必要性を認識している。若い世代を含めて継続的に機運醸成を図るとともに、より多くの主体間との連携を強化し一体的に取り組むことで、更なる発展に期待できる。

【評価結論】 S:協働の原則に基づき適切に取り組んでおり、様々な主体間との連携や今後の展望に向けて積極的に取り組む意欲があるなど、協働事業として優れており、更なる発展が期待できる。

A:協働の原則に基づき適切に取り組んでおり、様々な主体間との連携や今後の展望に向けて積極的に取り組む意欲があるが、課題への対応など一部改善することで、更なる発展が期待できる。

B:協働の原則に基づき取り組んでいるが、一部又は一方に理解のずれがあるため、より一層意識して協働事業に取り組むなど、一部改善の必要がある。

C:協働事業としての認識が、一部又は一方に不足しているため、協働事業として取り組むにはかなりの改善が必要である。

D:事業目的、協働の必要性、相互理解及び情報共有・課題の共有ができておらず、協働事業としては不十分であるため、協働事業として取り組む必要があるかなど、再度検討する必要がある。

府中市協働事業 第三者評価シート

事業名称	広がれ こども食堂 繋がれ 支援のわ～地域で作るこども支援の仕組み～
事業実施者	こどもの居場所作り@府中／府中市子育て応援課
事業目的	支援者や関連機関のみでなく、市民が自身の周りにいるこども達に関心を寄せることで地域全体でこどもや家庭を支援するためのこども食堂などの居場所が広がる。
事業内容	情報交換会開催、こども食堂新聞発行、シンポジウム開催、こども食堂マップ作成
事業目標	地域で孤立しているこどもや家庭を支える居場所の必要性を市民が感じ、こども食堂などの場が数多くできること、それを支援するさまざまな人たちが増えることを目指す。

	S
1 評価結論	こども達を地域で支える仕組み作りとして、適切な事業である。 相互理解ができており、お互いの強みやネットワークを活かし合うことで、協働事業として相乗効果があった。 将来の課題やビジョンも明確である。市の横断的な協力体制を継続していくとともに、関係団体や事業者との連携を深めることで、更なる発展が期待できる。
2 事業について	こども食堂という家庭と学校以外の居場所を広く市民に知らせるとともに、関係団体がつながり、支え合う仕組みを地域につくるといった目的は共有されており、適切である。事業を通してネットワークを広げるとともに、顔が見える関係性を構築することができたことは協働の意義がある。
3 協働の視点について	密にコミュニケーションをとりあい、情報共有がしっかりとできている。役割分担も細かく設定されていた。市も団体の理想とするところを理解し、関連部署と連携を取りながら積極的に取り組んでいる。 民間の柔軟性と行政の公共性を活かし合いながら実施できていた。
4 今後の展望や様々な主体間との連携	福祉分野での活動や事業者との更なる連携など、事業課題の把握と将来のビジョンが明確である。市の関連する部署間の協力体制を継続していくことで、更なる事業の発展に期待できる。

【評価結論】 S:協働の原則に基づき適切に取り組んでおり、様々な主体間との連携や今後の展望に向けて積極的に取り組む意欲があるなど、協働事業として優れており、更なる発展が期待できる。

A:協働の原則に基づき適切に取り組んでおり、様々な主体間との連携や今後の展望に向けて積極的に取り組む意欲があるが、課題への対応など一部改善することで、更なる発展が期待できる。

B:協働の原則に基づき取り組んでいるが、一部又は一方に理解のずれがあるため、より一層意識して協働事業に取り組むなど、一部改善の必要がある。

C:協働事業としての認識が、一部又は一方に不足しているため、協働事業として取り組むにはかなりの改善が必要である。

D:事業目的、協働の必要性、相互理解及び情報共有・課題の共有ができておらず、協働事業としては不十分であるため、協働事業として取り組む必要性があるかなど、再度検討する必要がある。

府中市協働事業 第三者評価シート

事業名称	MOA美術館府中児童作品展 巡回展
事業実施者	MOA美術館府中児童作品展実行委員会／府中市指導室
事業目的	巡回展示を市と協働で行い、市全体に広げることで、作品を介した交流が活発になり、子どもたちの情操教育の推進と、地域コミュニティの活性化を図ることができる。
事業内容	MOA美術館府中児童作品より、金賞以上の作品を10点、その他開催場所の近隣小学校出品作品を展示し、展覧。観覧者よりいただいたアンケートのパンフレットを作成し、該当児童に届けた。
事業目標	巡回展示開催場所をさらに増やし、地域と子どもたちの繋がりを作る。特に、医療施設や介護施設等、ホスピタルアートの取り組みなどに貢献していく。

	C
1 評価結論	相互理解や情報共有が不足しているため、意識しながらより密にコミュニケーションをとる必要がある。市がより積極的に関わり、分野に捉われず他部署との連携を図り、橋渡し役を担うことを期待する。横の連携を強化することで更なる事業の広がりが期待できる。
2 事業について	子どもたちの情操教育と地域コミュニティの活性化のため、子どもたちの絵を見たくても見に行けない方のために巡回展を実施するという事業内容と、目的の設定は適切である。年々会場も広がっており、今後更なる広がりが期待できる事業である。
3 協働の視点について	目的の共有ができていますが、更なる事業の広がりを求める団体の熱意に対し、市が消極的であるように感じる。また、相互理解や情報共有が不足しているため、コミュニケーションを密にし、相手を理解して強みを活かし合うことで、更なる広がりが期待できる。
4 今後の展望や様々な主体間との連携	様々な主体や部署との連携の可能性がある事業である。広報協力に留まらず、市がより積極的に関わり、他団体や他部署との横の連携を強化し、更なる事業の発展に期待する。

【評価結論】 S:協働の原則に基づき適切に取り組んでおり、様々な主体間との連携や今後の展望に向けて積極的に取り組む意欲があるなど、協働事業として優れており、更なる発展が期待できる。

A:協働の原則に基づき適切に取り組んでおり、様々な主体間との連携や今後の展望に向けて積極的に取り組む意欲があるが、課題への対応など一部改善することで、更なる発展が期待できる。

B:協働の原則に基づき取り組んでいるが、一部又は一方に理解のずれがあるため、より一層意識して協働事業に取り組むなど、一部改善の必要がある。

C:協働事業としての認識が、一部又は一方に不足しているため、協働事業として取り組むにはかなりの改善が必要である。

D:事業目的、協働の必要性、相互理解及び情報共有・課題の共有ができておらず、協働事業としては不十分であるため、協働事業として取り組む必要性があるかなど、再度検討する必要がある。

府中市協働事業 第三者評価シート

事業名称	行政提案型協働事業ワークショップ「輝け！みんなのふうせん金メダル」
事業実施者	リフレッシュママ府中／府中市政策課
事業目的	東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた気運醸成
事業内容	市内13回／ふうせん金メダル出張ワークショップ開催
事業目標	オリンピックに向けて何かしたい！という気持ちを形にして大会に向けた気運を盛り上げる。 平成30年度目標メダル1000枚。

	A
1 評価結論	情報共有、目的共有ができており、定量目標を定め、それに向けて一体感を持って取り組んでいた。 また、相互理解ができており、お互いの強みを活かし合うことで相乗効果が生まれていた。 東京2020オリンピック・パラリンピック後のレガシー創出に向けた展望を明確にし、関係団体との連携を深めることで、更なる発展に期待できる。
2 事業について	東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた気運醸成という目的の共有がしっかりとできていた。誰でも気軽に参加できるワークショップで、多くの市民の参加を得ながら効果的に実施ができていた。定量目標を設定し、それを達成している点も評価できる。
3 協働の視点について	市主催イベントのみではなく、出張ワークショップについても情報共有を行いながら実施ができている。 また、市が持っていない子ども向けコンテンツの提供や、団体単独では難しい幅広い層への周知等、お互いが相手の強みを理解し、活かしながら事業を実施しているが、更なる工夫を加えることで、より一層の相乗効果が期待できる。
4 今後の展望や様々な主体間との連携	多くの関係団体と連携しながら実施している。様々な活動のフィールドがあり、更に多くの主体との連携が期待できる。 東京2020オリンピック・パラリンピックまでの事業とせず、その後のレガシー創出に繋がられるよう、行政、関係団体等と連携を深めながら事業を展開していただきたい。

【評価結論】 S:協働の原則に基づき適切に取り組んでおり、様々な主体間との連携や今後の展望に向けて積極的に取り組む意欲があるなど、協働事業として優れており、更なる発展が期待できる。

A:協働の原則に基づき適切に取り組んでおり、様々な主体間との連携や今後の展望に向けて積極的に取り組む意欲があるが、課題への対応など一部改善することで、更なる発展が期待できる。

B:協働の原則に基づき取り組んでいるが、一部又は一方に理解のずれがあるため、より一層意識して協働事業に取り組むなど、一部改善の必要がある。

C:協働事業としての認識が、一部又は一方に不足しているため、協働事業として取り組むにはかなりの改善が必要である。

D:事業目的、協働の必要性、相互理解及び情報共有・課題の共有ができておらず、協働事業としては不十分であるため、協働事業として取り組む必要性があるかなど、再度検討する必要がある。